

## NEWS ONLINE

### アルミから「水素」 高岡の会社がトヨタと実用化に向け共同開発

社会 2020年12月10日



県内でも温暖化ガスを排出しない究極エコカーと言われる水素自動車走り始めていますが、その「水素」をアルミから作り出す装置を開発した高岡市の会社がトヨタ自動車と実用化に向け共同開発に乗り出すことになりました。

トヨタ自動車と共同開発をするのは、エネルギーリサイクルシステムを研究開発している高岡市のアルハイテックです。これまでにアルミを特殊なアルカリ水溶液に入れて水素を発生させる装置を完成させており、今回の共同開発によってトヨタ自動車の工場からでるアルミ合金の切りくずで水素を製造する実証実験を行い、工場などでの実用化を目指すことになりました。

中では、水素を連続して発生させ1時間当たりの製造量はこれまでの約5キロの数十倍を上回り、大量の水素を安定して作り出すことを目指します。

成功すれば、アルミから水素を作り出す技術が実用化に向け大きく前進することになります。

それほど大きくない規模の装置でも効率よく水素を製造できるようになれば、現在のように運搬コストがかからなくなり、2050年の脱炭素化の水素社会構築に向け大きく前進すると見られています。

アルハイテックとトヨタ自動車では、年度内に実証を終え、アルミから水素を製造する装置の普及拡大を目指したいとしています。